

移住者インタビュー【第2回】

令和2年に神奈川県から移住された「**工藤夏樹さん・奈津美さん**」ご夫婦にお話を伺いました。現在は田切地区に住みながら、アスパラ農園「なつぞら」を運営しているアスパラ農家さんです。お二人はどんな「いいじまライフ」を送られているのでしょうか。

Q.飯島町へ移住を決めたきっかけ・理由を教えてください。

夏樹さん：北海道で生まれ育ち、進学のため18歳で上京しました。その後は東京で社会人をしていたのですが、農業に興味があり福井や北海道を色々サーチしていました。ただ、独身だと厳しいかな・・・とも感じていて。いったんは諦めていたのですが、その後結婚し、住宅を購入しようと考えていた時、妻が移住セミナーに参加して、飯島町に出会いました。トレーラーハウスでのお試し暮らし中に町内を案内してもらったり、農業体験をして、どんどん飯島町に住みたいと思うようになりました。

奈津美さん：神奈川県出身で、夫とは三線教室で出会いました。結婚後、マンションを購入しようと色々見ていたのですが、中々良い物件が見つからず・・・悩んでいた時にふと「地方での暮らしはどんなのだろう」と思い、移住セミナーに参加しました。祖母の家が田園風景に囲まれたところにあり、田舎暮らしに憧れていたこともきっかけです。そのセミナーで飯島町に出会い、話を聞いていくうちに「なんかすごくいいところじゃないか」と思ったことが飯島町に住みたいと思ったきっかけです。

お二人が参加したセミナーは「信州で暮らす・働くフェア」というセミナーです。市町村だけでなく企業も参加するセミナーです！移住に興味あるけど仕事はどうやって探そうかなと考えている方にピッタリのセミナーです。令和7年度も東京・有楽町で開催しますので、ぜひチェックしてみてください。

詳細・お申込みはコチラ →



Q.現在のお住まいについて教えてください。

現在は戸建ての賃貸住宅に住んでいます。

最初は住宅と農園のための農地を探していたのですが、希望していた地区になかなか借りられる物件と農地が見つからず。探す範囲を広げたら、田切地区の農業法人の社長と営農組合が農地を何か所か紹介してくれました。その農地と同じタイミングで「ここもどうですか？」と住宅も紹介してくれました。

この住宅はもともと簡易郵便局だったそうです。

水回りなどは整っていて、清掃と壁紙の張り替えをして、リフォームせずに入居できました。

農業を始めるにあたり、農機具や農業ハウスの購入にお金がかかることが分かっていたため、中古住宅の購入は考えていなかったです。移住してきた当初は町営住宅に住んでいました。町営住宅に住んでいるときに農業の研修を受けて、研修後に今の住宅に移り住みました。

お二人の現在のお住まい。

2階建ての住宅と元簡易郵便局の事務所が一緒になった住宅です。

大きな生活道路に出やすく、駅も近い交通の便がよい立地ながら、ほどよく他の民家と離れた閑静な場所にあります。



Q.アスパラ栽培についてよかったことや大変なことを教えてください。

最初は農業を考えていなかったのですが、話を聞いていくうちに農業に興味を持ちました。

「農業農村支援センター」に相談して農業の始め方を聞いたり、町の定住促進室が研修先の里親を探してくれて、研修後に独立しました。

◇楽しいこと

アスパラ農家同士の仲がよく、いろいろ情報交換をしながら交流しています。

あと、アスパラのお世話をして、順調に育ってくれると達成感があります。マルシェなどで子どもに美味しいと言ってもらえたり、強面のお兄さんがにこにこ美味しいといってくれたり、みなさんに「美味しい」と言葉をもらえると嬉しいです。

畑の生き物を観察するのも楽しいです。この生き物はアスパラにどんな影響を与えるのだろう、と観察して調べたり。昔は虫が苦手だったのが、今ではだいぶ平気になりました。（奈津美さん）

あとは、他の市町村のアスパラ農家さんとなつながりを持てるのも嬉しいです。栽培の情報交換などしてます。

◇大変なこと

アスパラは4月～10月にかけて毎日収穫します。収入もその分安定しますが、その期間は休みがないので大変です。育てる作物によってメリット・デメリット、人によって向き・不向きがあります。可能なら、体感してみて自分に向いているのか選んだ方がいいと思います。ハウス栽培の作物でハウスを建ててから、「こんなはずじゃなかった」となると大変ですから・・・。

あとは、忙しい時期は作業が集中することが大変です。特に収穫と農薬散布、草管理が重なる夏は大変です。忙しいときは人づてでご紹介してもらったアルバイトさんを頼んでいます。移住者の方や地元の方など様々ですが、人づてで頼めるのは地方ならではの良さと感じます。

体力的にも大変です。外作業が予想以上に体に負荷がかかっていると感じます。同じ姿勢で作業するため、背中や肩も常に凝ったり張ったりしています。



アスパラ農園「なつぞら」
田んぼ2枚分の広大な農園をお二人で管理されています。
中央アルプスの絶景を見渡せる場所にあり、農園の脇を豊富な水路が流れています。



アスパラの様子。
アスパラは種をまいて3年ほどで収穫可能な大きさに育つそうです。
また、畑の「土」が一番大切で、水はけがよく、かつ適度に水分を保った土壌がアスパラに向いているとききました。農業の難しさをひしひしと感じます。

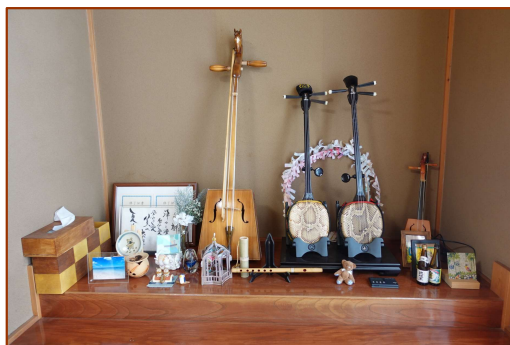
Q.お二人の趣味について教えてください。

夏樹さん：沖縄が好きです。暖かい海に憧れていました。いまでもたまに三線を弾いています。あとは温泉が好きです。週一で駒ヶ根の温泉にいったり、浅間温泉に行ったりしています。野球が好きで、学生の際は自分も野球をやっていましたが、今はTV観戦が多いです。

奈津美さん：ピアノや三線を弾いたり、絵を描いたり、一人旅をしたり、とりあえず気になることはやってみようという感じで色々趣味を楽しんでいました。今は忙しくて中々時間が取れませんが、飯島町の三線仲間と一緒に趣味を楽しんでいます。あとはお酒ですね。二人ともお酒が好きなので、一緒に楽しんでいます。

Q.移住してよかったことを教えてください。

みなさんとても優しいです。仲間とお茶したり、玄関におすそ分けが置いてあったり、ご近所付き合いが楽しいです。踏み込みすぎず適度な距離感で接してくれます。ご飯も美味しいです。お米はもちろん、野菜や果物など美味しい食べ物に恵まれています。あとは水道水が美味しい！水道水がごくごく飲めることに驚きました。住んでいるところは静かだけど、少し行けば病院も買い物する場所もある。程よい田舎なところがとてもいいです。また、生態系が豊かだと感じます。野鳥が好きなので、様々な鳥が日常的にさえずっているのはもちろん、たぬきやへび、鹿、カエル、トカゲなど・・・とても楽しいです。



お二人の趣味である三線。
ここには写っていませんが、奈津美さんはアロマキャ
ンドルも作られているそうです。

Q.移住を考えている方へメッセージをお願いします。

人の中に溶け込むまでが大変かもしれませんが、溶け込んで地域の輪の中へ入っていけば、すいすい色々進んでいき、あたたかく受け入れてくれる町だと思います。周りと壁を作らず、失礼のないように人の輪の中へ入っていくことが大事です。溶け込めればとても楽しいです。飯島町はとても住みやすく、よいところです。二人とも移住してきてよかったと感じています。



取材後記

インタビューにお伺いし、夏樹さん・奈津美さんの優しく、暖かな人柄を感じる時間を過ごすことができました。
また、広大な農園をお二人で管理されていると伺い、改めて農業の大変さを感じました。
お二人が丹精込めて育てたアスパラは、町の農産物販売所やマルシェで購入することができます。みずみずしく甘いアスパラを、ぜひご賞味ください。



取材・文：飯島町役場 企画政策課 人口対策・移住定住推進係